

成功はお母さんの手中に

ドーマン：ここで、子供をどういうようにして、動機づけさせるか、ということについてお話してみたいと思います。

重い脳障害児の場合は、自分のやろうとしたことを、すべて失敗してしまいます。

重い障害児の女の子を持つ母親に「お母さん、あなたのお嬢さんが、鉄棒にぶら下がるということは、とっても大切なことです。何回も何回も練習して、いつかは、このお嬢さんも、1 分間、鉄棒にぶら下がらなければいけませんよ」と言いました。お母さんは、私の話を聞いて、メリーちゃんという重い脳障害の女の子を、家に連れて帰り、「メリーちゃん、鉄棒からぶら下がることは、あなたにとって、非常に大切なことなのよ」と言いました。

ここで、ちょっと、おうかがいしておきたいのですが、この重い脳障害の小さい子供が、どのくらい鉄棒からぶら下がると思いますでしょうか。はっきり言って、誰も知らないわけです。私も知り

ません。当のメリーちゃんにさえ分かりません。メリーちゃんが、成功したか不成功だったかは、お母さんの心構えの中にあるだけなのです。

九千回目の失敗

かりに、お母さんが「さあ、メリーちゃんやるんですよ」と言ってメリーちゃんを鉄棒にかけさせたとします。そして、メリーちゃんが、かりに二分の一秒ぶら下がったとします。

ここで、二つの可能性があります。一つは、「メリーちゃん、だめじゃない。そんなことじゃ。二分の一秒なんて。一分はぶら下がらなければいけないのよ」と言ったとします。すると、メリーちゃんは、心の中で、“筋書き通りだわ。いつも私はこの通りなんだから。また、九千回目のしくじりをやっちゃったわ”と思います。“先生でもなんでも、大人は、皆こういうことをさせて、毎日毎日、失敗させるんだわ”と思うわけです。